



大阪の「阪」と、大坂城の「坂」はどうしてちがうの

もともとは「大坂」と書いた

大阪は、歴史的に重要なところで、古代には、難波といわれ、都が置かれたりしました。中世の都市としての大坂の出発点は、1496年に、蓮如というお坊さんが、今の大阪城のあるところに、石山御坊（石山本願寺の前身）を建て、そこに寺内町ができたのです。その後、1583年、豊臣秀吉が天下統一の拠点として、大坂城を建設し始め、1585年に完成しました。

江戸時代には、大坂と書き、「おおさか」、または、「おおざか」とよばれ、幕府の直轄地でした。諸国の大名の蔵屋敷が集中し、諸国の米や特産物の取引の中心地としてとてもにぎわい、「天下の台所」とよばれました。このような大坂の発展は、水運が重要な役割をはたし、大坂から全国各地への航路が開け、「出船千艘」「入船千艘」といわれました。

明治4（1871）年に、「大阪」と改められた

それまで「大坂」と書いたものを、明治4年から、「大阪」と書き表すように改められました。

ですから、明治時代以前のことがらについて書かれたものは、「大坂」と表現され、明治時代から後のことがらについて書かれたものは、「大阪」となっているのです。

ふつう「大阪城」と書き、「大坂城」と書くこともある

特別史跡の大阪城は、今の大阪府・大阪市の名称と同じく、「大阪城」と書きます。ただし、歴史的なことがらを説明するときには、昔の名称の「大坂」と同じく、「大坂城」と書き表します。（監修・田代 脩）

